

関数とその表現（２）

例えばリンゴの写真を見ながら、「リンゴにはどんな特徴があるかな？」「リンゴについて気づいたことはないかな？」と問いかけ、それに関わって話が進んで行くとすれば、そこではリンゴについて話がされていると言えよう。しかし同じ写真を見ながらだとしても、「ピントの合わせ方はこれでいいかな？」「色味は適切かな？」「他のアングルは考えられないかな？」といった問いを軸として話が進んで行くとすれば、そこではリンゴについて話がされているのではなく、リンゴの写真について、つまりリンゴの表現について話がされていることになる。

表、式、グラフを扱いながら、それらの“間”に関数が自然に浮かび上がってくるのかと考えると、私たち教師が「関数の表現について」ではなく、「関数について」語り続けることが重要になるであろう。そう考えた時に、リンゴの写真を見ながらリンゴ自体についてではなく、リンゴの表現の特徴や表現の技法を語るようなことになってしまっていないだろうか。

専門家に笑われそうだが、「指月の譬」のように考えた時に、少なくとも関数の学習については、生徒が月を見ずに指を見てしまうのは、私たち教師の側にも原因があるのではないだろうか。ただ関数は、月ほどはっきりとは目に見えないところが、きついところではあるけれども。

【算数・数学教育におけるIAQに戻る】